



季刊

弥生に出雲王に出会える



出雲弥生の森博物館だより

IZUMO YAYOI NOMORI MUSEUM



マスコットキャラクター  
よすみちゃん

第9号 (2013年4月)

★インフォメーション

●出雲弥生の森まつり2013  
黄金週間は弥生の森へ行く！

(★印は参加無料)

4月27日(土)

★オーブニング 9時30分～  
大津小学校児童による古代体験  
学習発表・土笛演奏

★館長のおはなし 10時～

★よすみちゃんクイズ 13時～

●屋台村・お茶席 10時～

★野外遊びコーナー 10時～

(どんぐり飛ばし、吹き矢)

★西谷墳墓群ガイド 10時～

(国史跡公園をご案内)

4月28日(日)

★常設展ギャラリートーク 10時  
(学芸員が展示を解説)

●屋台村・お茶席 10時～

●バザー・餅つき 10時～

★野外遊びコーナー 10時～

★西谷墳墓群ガイド 10時～

●荒神谷博物館コーナー 13時～

(プラ板づくり)

★博物館探検隊 14時、15時

(バックヤードをご案内)

4月29日(月)

★常設展ギャラリートーク 10時

★西谷墳墓群ガイド 10～12時

★職員ミニリレー講座 14時～

「H24年度 発掘ダイジェスト」

「お墓の歴史」

「出雲平野とその周辺」

「近世の出雲地域の神社について」

「多伎藝神社文書を中心に」

.....

5月3日(金)

★キャラ探しスーパード 10時～

●勾玉づくり 10時～

●缶バッジづくり 10時～

5月4日(土)

★博物館探検隊 10時30分、14時、15時

5月5日(日)

★よすみちゃんクロスワード 10～12時、13～15時

●古代出雲歴史博物館コーナー 13時～

(プラ鐸づくり)

共催 弥生の森おまつり

●特別展 予告

7月20日(土)～9月9日(月)

「もう一つの出雲神話」

中世の鰐淵寺と出雲大社

【観覧料500円】

奈良時代の『出雲国風土記』には、ヤツカミズノオミヅヌが朝鮮半島や隠岐、北陸の能登半島から陸地を引つ張って、出雲を形作った神話が記されています。いわゆる「国引き神話」です。出雲の人であれば、一度は耳にしたことのある神話でしょう。ところが、鎌倉時代から戦国時代にかけて、出雲でもう一つの「国引き神話」があらわれます。その神話の主人公はスサノヲ。仏教の聖地であるインドの山の一隅が欠けて、日本に流れてきたところを、スサノヲが杵でつき固めたのが現在の島根半島であるという神話です。鰐淵寺や出雲大社、松江の賣布神社、仁多の湯村温泉など、出雲の各地でこの神話が語られました。

今回の特別展では、もう一つの出雲神話の紹介とともに、神話が生まれた背景となった中世の鰐淵寺と出雲大社との関係に迫ります。

(高橋 周)

★特集 研究ノート⑨

2013年春季企画展

「お墓のカタチ 穴・箱・部屋」  
～出雲の埋葬の歴史～より

私たちの住む出雲には、「屋敷墓」を備える家が数多く残っています。また、猪目洞窟遺跡や国富中村古墳など、古代の埋葬の様子をうかがえる遺跡もたくさん発見されています。これらのお墓を概観すると、時代や社会背景に応じてその形態が変化することがわかります。

お墓の内部、つまり遺体や骨を納める部分に注目してみましよう。すると、さまざまな「カタチ」があることがわかります。それらを分類すると、大きく穴・箱・部屋に分けることができそうです。

**穴のお墓**はもつとも単純なカタチです。縄文時代から現代までつづられ続けるお墓です。

**箱のお墓**は入れ物の中に遺体や骨を納めるものです。ここでは土器棺などの容器も含めることとします。容器(土器)のお墓は縄文時代の甕棺がその始まりですが、箱(棺)のお墓は弥生時代に木棺が

くられ始めて使用が広まります。**部屋のお墓**は古墳時代に出現します。古墳の横穴式石室がその代表例です。

奈良・平安時代以降は穴や箱のお墓が主流になっていきます。

現在のお墓は、多くが地上に墓石を立てて、その下に火葬骨を納める空間をもつ構造です。このようなお墓は部屋または箱のお墓といふことができます。

出雲平野では、弥生時代前期(約2500年前)に人々が定住を始め、お墓の歴史もスタートします。

今回の展示では、このころのお墓から江戸時代のものまでを取り上げています。

**弥生時代**のものとしては、前期の配石墓が見つかった原山遺跡(大社町)出土品のほか、猪目洞窟遺跡の人骨を展示しています。この人骨は、右腕にゴホウラ貝輪をはめていたことでよく知られていた人骨ですが、並べた状態で展示するのは初めてです。

**古墳時代**の展示品としては、発見当時(江戸時代)の大念寺古墳の石室が描かれた絵図が注目されます。今はありませんが、前室に家形石棺が置かれていたことを絵図

は伝えていきます。

**奈良・平安時代**のコーナーでは火葬墓を取り上げ、蔵骨器(今の骨壺)を展示しています。火葬が始まった奈良時代当初は石製だったり須恵器だったりしたことがわかります。

**鎌倉時代以降**のお墓としては、萩村古墓や姫原西遺跡などを取り上げました。姫原西遺跡で見つかった古墓は、そのまま展示されています。木棺に納められた人骨が残っており、当時の埋葬の様子を生々しく今に伝えます。

今回の展示品は約一六〇点。これらを実際にご覧頂き、人々の死者に対するさまざまな思いを感じ取って頂けたら幸いです。

(三原一将)



展示の目玉は  
猪目洞窟遺跡の出土品

●展示案内

春季企画展

5月6日(月)まで

お墓のカタチ 穴・箱・部屋

—出雲の埋葬の歴史—

観覧料 300円

(高校生以下無料)

ギャラリー展

6月3日(月)まで

続・よみがえるな!

—国富中村古墳の発掘秘話—

観覧料 無料

速報展示

4月22日(月)まで

鰐淵寺 発掘調査速報展

—鰐淵寺川南地区の調査成果—

観覧料 無料

4月24日(水)から

6月24日(月)まで

上塩冶横穴墓群 発掘調査速報展

観覧料 無料

現在、西谷3号墓は張芝養生のため、頂上に登ることができません。(6月末までの予定)

★指定文化財紹介①

「大寺古墳（おおてらこふん）」



後円部の墳頂部

- 場所：出雲市東林木町  
(大寺薬師東方の裏山)
- 古墳の形：前方後円墳
- 石室の種類：竪穴式石槨
- 全長：52 m
- 前方部の長さ：27 m
- 後円部の直径：27 m

出雲市東林木町の一畑電車北松江線大寺駅から北へ約800m行くと、重要文化財の彫刻群で有名な大寺薬師（萬福寺）というお寺があります。その裏山を案内看板に従って徒歩5分ほど登ると大

寺古墳があります。

古墳の形は、前方後円墳で、写真のとおり石碑が建てられている場所が、後円部の墳頂部です。古墳時代前期後葉（四世紀後半）に造られた、出雲西部地域最古の前方後円墳の一つと考えられています。大きさでも、出雲平野部では3番目に大きい前方後円墳になります。

これらのことから一九五九年（昭和34）に出雲市の史跡として文化財に指定されています（市指定史跡の古墳は4件あります）。一九五二年（昭和27）に島根大学山本清先生らにより発掘調査が行われ、後円部から埋葬施設（竪穴式石槨）が見つかりました。また、二〇〇三年（平成15）には県によって調査が行われ、古墳の構造や規模等が明らかになりました。古墳の墳丘斜面が石で覆われている事（葺石）が大きな特徴です。また、埴輪が一片も発見されませんでした。

大寺古墳は、出雲西部地域における前方後円墳の出現を考えるうえで、とても重要な古墳です。

(伊藤靖浩)

★発掘調査の現場から⑥

「斐川中央工業団地発掘調査①」

出雲市文化財課では、出雲市斐川町直江の斐川中央工業団地造成工事予定地内で発掘調査をしています。二〇一二年（平成24）度の調査は昨年の七月から今年の二月まで実施しました。

調査地は県種豚場の跡地で、五つの丘陵とそれに挟まれた平坦面と谷部からなっています。七月初めから全域で試掘調査を行い、そのうち約一万五千㎡が本調査の予定地となりました。十一月からは南側と東側の丘陵を中心に本調査を実施しました。今回は、東側の丘陵における調査の状況を簡単にご紹介します。

東側の丘陵には杉沢横穴墓群が存在し、現在は十三基の横穴墓が確認できています。過去に道路工事の際に発見された二基と合わせると、十五基以上の横穴墓群であったと予想されます。

横穴墓は古墳時代後期（六世紀後半～七世紀）に造られたお墓です。調査中の横穴墓は、広い前庭部や、玄室入口の玄門が比較的に

つかりしたつくりをしています。その特徴から、これらの横穴墓は、主に七世紀代のものと考えられます。また、開口方向は多くが南側を向いているなかで、中央の一基はやや東側に開口しています。そのため、同じ横穴墓群のなかでも造られた時期に違いがあったのかもしれない。

斐川中央工業団地では今年度も継続して調査を実施し、現地説明会も予定しています。今後の調査の進展には是非ご期待ください。

(幡中光輔)



調査中の杉沢横穴墓群（南より）

★講座のご案内

▼ギャラリートーク

展示を見ながら、学芸員が解説します。質問にもその場でお答えします。(お申し込みは不要です。)

【ギャラリー展】

続よみがえるな!

— 国富中村古墳の発掘秘話 —

4月7日(日)

【担当学芸員】坂本豊治

● 14時〜(30分程度)

● 無料

【企画展】

お墓のカタチ 穴・箱・部屋

— 出雲の埋葬の歴史 —

4月21日(日)

【担当学芸員】三原一将

● 11時〜、14時〜(40分程度)

● 観覧料300円が必要

たいけんコーナーに新しい土器パズルが仲間入り!今度のはちよつと難しいぞ!



▼職員リレー講座

出雲の文化財や歴史、最新の発掘成果について、出雲市文化財課職員がわかりやすく語ります。

5月25日(土)

「出雲大社境内遺跡の発掘調査から」

【講師】曾田辰雄

(埋蔵文化財1係)

6月8日(土)

「(仮)砂に埋れた遺跡 板津焼山遺跡調査成果の報告」

【講師】石原 聡

(埋蔵文化財1係)

6月22日(土)

「遷宮記念!」

出雲大社の建造物について

【講師】野坂俊之

(文化財保護係)

右の講座はいずれも

● 時間 14時〜16時

● 受講料 300円

● 定員 80名

講座の受講には事前申込みが必要です。電話・FAX・メール等でお申し込みください。

★館長コラム⑤



古事記ブームが続いています。でも、中巻に登場する出雲の勇者イヅモタケルは、あまり知られていないようです。

大和の朝廷から派遣されたヤマトタケルは、友人になったふりをしてイヅモタケルに近づきます。そして自分の刀を木刀に替えておいて一緒に斐伊川で沐浴し、先に岸が上がってイヅモタケルの刀を取り、刀を交換して、「いざ決闘だ」と言って、抜けない木刀を持たされたイヅモタケルを殺しました。

敵がまともには太刀打ちできないほどの武勇。それでいてすぐ人を信じるお人好し。そんなイヅモタケルが、私は大好きです。

さて、大和政権が送り込んだ刺客が、何の罪もない出雲の指導者をだまし討ちしたというこの説話は、その後抹殺され、日本書紀にも風土記にも載せられませんでした。時の権力者にとっては不都合な伝承だったのでしよう。

イヅモタケルは伝説上の人物ではあります。東北地方のアテ

ルイ(政府軍と戦った蝦夷の首長)や、フランスのウエルキングゲトリクス(ローマ軍と戦ったガリア人の首長)にも比せられる英雄です。いずれも外敵の侵略に敢然と立ち向かい、最後は敗れました。

アテルイやウエルキングゲトリクスは、それぞれの地域で偉大な英雄として尊敬され顕彰されています。しかし、イヅモタケルはなぜか、忘れられた存在です。西谷墳墓群に葬られた王たちこそ、イヅモタケルのモデルではないかと考えている私は、それが残念でなりません。(渡邊貞幸)

※各種講座・イベントに参加ご希望の方は、電話またはFAX、メールでお申込みください。

(発行) 出雲弥生の森博物館 2013年4月  
〒693-0011 島根県出雲市大津町 2760  
(TEL) 0853-25-1841 (FAX) 0853-21-6617  
(e-mail) yayoi@city.izumo.shimane.jp  
http://www.city.izumo.shimane.jp/yayoinomori

●入館料/無料(特別展等観覧料を除く)